

Suma Tomogadoka 通信

令和7年度 12/23 発行 第4号
兵庫県立須磨友が丘高等学校
総合学科推進部

1 年次 クロスカリキュラム成果発表（産業社会と人間）

12月15日（月）3、4時間目に1年次「産業社会と人間」の授業で、クロスカリキュラム探究の成果発表を行いました。今年度のクロスカリキュラム探究では、異なる教科の教員が協同し、生徒たちがフィールドワークで地域社会に出かけ、各分野の専門家と繋がり、ものごとに対する深さと広さの両面的な学習を念頭に実践してきました。

班のメンバーで協力して、学んだ成果をまとめたポスターは、生徒たちが探究活動で様々なことを吸収したことがわかり、生徒自身がそれぞれの課題に向き合い、考えた成長の姿が見受けられました。現場に出て実社会の問題に向き合った生徒たちは、入学した時と比べて遅くなり、いきいきとした表情を見せていました。

例えば小学生に防災を伝える上で、防災の重要性を自分ごととして捉え、楽しく取り組めるために劇やカルタゲームを取り入れたり、段ボールや新聞で防災グッズ（スリッパ）を作成するなど自分たちの目線で防災に向き合っていました。また、須磨の海オリジナルTシャツを作って人との繋がりを通じ地域の活性化を図る、須磨アルプスの良さを外国人にも理解してもらうために英文で広報する、高齢化社会における「幸せな暮らしのためのちょっとした交流」として個人のペースを大切に地域に関わっていくことなど発想に高校生としての新鮮さが活かされていました。一方で実践段階での時間配分の反省など社会や人に真摯に関わることに、自らの力でより良くしようとする向上心を垣間見ることが出来ました。以前にも増して自己評価を客観的にに行い、自らの反省点を把握して、改善策を考えていることが大きな実りであったと思います。

継続的な学びの第二段階として来年度の課題研究に向けて、学びの広がりを感じ取ることができました。本校の特色である「探究」をしっかりと各自の成長に繋げられることを期待しています。

今回のクロスカリキュラム探究で興味が湧いたこと、疑問に思ったこと、もっと調べたいと感じたこと、改善したいと気づけたことを大切に、段階的に学びを深めることができる本校での学習活動をそれぞれの今後の学びに活かしてほしいと思います。

〈生徒の感想〉

- ・ポスターは見やすいことが命だから、余計な文はできるだけ省くようにした。タコラッチの実演では、内容を覚えていたおかげで原稿を見ずに話すことができた。
- またタイトルを工夫したり、絵を入れたりして、興味を持ってもらえるように意識した。

- ・ポスターの余白を意識し、内容を細かく分けたり、フォントをデザインに合わせて変形させた。レイアウトはターゲットを明確にし、シンプルに拘り目線を意識した。発表では笑顔でのアイコンタクトや自分の発表を客観的に確認して自然な身振りや手振りを加え、専門用語はわかりやすい言葉に言い換えて具体例や体験談を付け加え、つなぎ言葉を減らすようにして、ポスターと発表に工夫を重ねた。



↑ 多井畑小学校での防災授業の様子



↑ ゼミ内での活動報告の様子

2 年次 探究活動報告 外部発表成果（課題研究）

【リサーチ・フェア in 関西学院大学総合政策学部】

11月15日（土）関西学院大学総合政策学部（神戸三田キャンパス）において今年で28回目となる「リサーチ・フェア2025」が開催され、本校から1組の小西瑠璃さん、3組の長脊広翔さんが参加しました。持ち時間25分（発表15分、質疑応答10分）を余すことなく使い、大学の先生方からの質問に丁寧に返答しました。他校の生徒の発表や、関西学院大学総合政策学部の生徒の発表もあり、質疑応答にも積極的に参加するなど充実した1日となりました。

〈生徒の感想〉

私は、関西学院大学三田キャンパスでのリサーチ・フェアを通して自身の研究について他者に伝える練習ができました。

今後の研究の際のアドバイスを他校の先生や教授からいただくことができてよかったです。今後は、リサーチ・フェアを通して得たものを研究に活かしていきたいです。

発表の様子 上：小西さん → 下：長脊さん



【中・高生 探究の集い2025】

12月13日（土）、関西学院高等部の西宮上ヶ原キャンパスにおいて「中・高生 探究の集い2025」が開催されました。本校からは、3組の久保葵花さんが「コンテスト部門」でスライドを用いた口頭発表、1組の山住朱音さんがオープン部門でポスター発表を行いました。大学の先生方や他校の生徒から多くの質問やアドバイスを頂きました。閉会式では関西学院大学の中央講堂に集まり、コンテスト部門の結果発表と表彰式、大学の先生方からの講評とがあり、最後に集合写真の撮影がありました。全国の生徒の皆さんとの交流から多くの刺激を受けた一日となりました。

〈生徒の感想〉

今回、中・高生探究の集いに参加して、自分の考えだけに囚われず、多角的にものを見ることの大切さがより深くわかりました。実際にたくさんの人の発表を聞いていく中で、様々な地域の中高生が集まっているからこそ私とは異なる捉え方だったり知らなかった分野の発表もあって、これから探求を続けていく中でとても参考になることが多く学びの多い機会になりました。

発表の機会をいただいたときこのチャンスを逃さずに頑張ろうという思いで臨みました。この集いには全国の高校生が集まっており、その中で発表するのはすごく緊張しました。私はポスター発表で、セッション形式なので発表する以前に見にきてくれる人がいるかとても不安でした。しかし1回目も2回目も多くの方に見ていただき、発表して良かったと感じました。他の高校の発表を見る機会は普段なかなかないのでとても新鮮でした。質疑応答を通して経験に深みが出るのが面白く、学ぶことが多くありました。今回の発表から、いろんな研究に触れたり人と繋がりを得られるような場で良い経験ができたと思います。学校内の発表に向けても気合をいれていこうと思います。

3 年次 実学探究 活動報告（総合的な探究の時間）

3年の「実学探究」は、実社会の身近な課題に焦点を当て、探究の学び方で理解を深める機会としました。テーマに合わせて事前学習をし、多様な考えを持つ生徒同士が少人数で対話を通して多面的に理解を進めました。

テーマ「消費者・労働者」では、若年層を標的にした契約や悪質商法や日本の労働者問題についての事例研究を行い、テーマ「民事事件・刑事事件」では、闇バイトや特殊詐欺についての討論を行いました。10月27日に兵庫県警察本部より川口翔氏に、12月1日に弁護士の吉田維一氏、坂本知可氏に専門的な視点から各テーマの解説や犯罪に巻き込まれないための心得について、ご講演いただきました。



事前学習の様子



〈生徒の感想〉（弁護士）

○個人情報を入力するときは一旦落ちつき、考えてからしたい。詐欺に合ったときは身近な人に相談するだけでなく専門家や行政機関にも相談することが大切だと思った。

○早期の相談を忘れずに、大切にしていきたい。

○過労うつや過労死の現状を聞き、自分が想像していた以上に過酷だったのでショックを受けたけれど、将来自分や自分の近くの人がつらい思いをしないように講演を聞けてよかったです。

○闇バイトなど、加担していると知らなくてもほとんど有罪になる。

○一番心に残っている言葉は「スマホは相談相手ではない」ということです。

○最近は困ったことがあるとスマホやAIに頼りがちだけど、情報に偏りがあってもいいのでトラブルになったときは頼るのをやめようと思いました。

○弁護士は犯罪者や被害者としてではなく一人の人間として接し、仕事をしていると知れた。



講演会の様子 左：弁護士 右：警察官



	日程	内容
実学探究③	9月29日(月)	【討論】消費者・労働者の事例検討
実学探究④	10月6日(月)	【討論】民事事件・刑事事件の事例検討
実学探究⑤	10月27日(月)	【講演】社会問題の実際 講師：兵庫県警察本部警察官
実学探究⑥	11月8日(土)	【事前学習】消費者・労働者の視点 ★★公開授業
実学探究⑦	11月17日(月)	「これからの時代を生きる」まとめの準備
実学探究⑧	12月1日(月)	【講演】権利と義務と法律 講師：弁護士
実学探究⑨	12月15日(月)	【ふり回り】総合学科3年間の学び

〈生徒の感想〉（警察官）

○自分とは程遠いものだと思っていたけど、被害児童の人数は高校生が一番多かったことやスマホ（SNS）での日常的な投稿から被害にあってしまうということが分かって気をつけるべきだと思った。

○今回は改めて SNS に関連するトラブルの事例をもとに SNS との付き合い方を学びました。一番気をつけないといけないと思ったことは、誰でも被害者になるだけでなく、加害者にも知らぬ間になり得るということでした。

○スマホの普及による影響で犯罪の低年齢化、特別法犯の増加、不同意わいせつ、性交などの重要犯罪の増加、闇バイトの増加などが起っていることが分かった。また、オンラインゲームや SNS の利用などが個人情報流出やホワイト案件、高額報酬などの闇バイトに関わってしまうことがあることが分かった。あまり知らなかった暴力団のことについても知ることができ、意外にも身近にいる存在だと分かり少し驚いた。

○画像生成 AI が誰でも簡単に使えるようになったことで今以上に多種多様な犯罪が増えそうだと感じた。

○怪しいことは疑って冷静に判断できる知識を持っておきたいと思った。